



あたらしい 農業技術

No.692

萎凋で爽やかなスミレのような香りが際立つチャ品種「ゆめすみか」

令和5年度

要 旨

1 技術、情報の内容及び特徴

- (1) 「ゆめすみか」は、「するがわせ」を種子親に、「きょうみどり」を花粉親として1990年に交配した実生群から選抜し、2022年に品種登録出願、2023年に出願公表されたチャ新品種です。
- (2) 「ゆめすみか」の早晚性は、一番茶摘採期が菊川(平坦地)では「やぶきた」と同日の『中生』、川根(山間地)では2日早い『やや早生』です。
- (3) 「ゆめすみか」の耐寒性(赤枯れ)は『強』、耐病虫性は炭疽病、赤焼病、もち病、クワシロカイガラムシのいずれに対しても『やや弱』です。
- (4) 「ゆめすみか」の収量性(定植5～6年目、平坦地～山間地)は、「やぶきた」と比較して10a当たり生葉収量では一番茶が110～147%、二番茶と秋冬番茶を加えた年間合計では144～249%と多収です。
- (5) 「ゆめすみか」の普通煎茶の荒茶品質は、色沢、水色がやや劣りますが、ほのかな桜葉のような香りがあり良好です。生葉を少し萎凋して緑茶にする香り緑茶製法では香気と滋味が優れ、爽やかなスマイレのような香りを呈します。

2 技術、情報の適用効果

- (1) 香り緑茶製法で製造した「ゆめすみか」は、既存品種にはない優れた香味を有するため、香りを活かした商品作りが可能です。
- (2) 「やぶきた」に比べて収量性が高いため、収益性の向上が見込めます。

3 適用範囲

- (1) 「ゆめすみか」は耐寒性や耐病性など、県内広域(菊川、川根、富士)での適応性が認められるため、県内全域での栽培に適します。
- (2) 高付加価値生産に取り組む自園自製農家や、特徴ある商品開発を目指す茶商や小売店等に適します。

4 普及上の留意点

- (1) 一番茶萌芽期が早生品種並みに早いため、防霜対策を早めに行う必要があります。
- (2) 「やぶきた」に比べて炭疽病の発生は少ないですが、通常の気象条件では多少の発生が見られるため、他の病害虫の防除と併せて防除の実施を検討してください。

目次

はじめに	1
1 来歴及び試験経過	1
2 生育及び一般特性	1
(1) 生育特性	1
(2) 早晩性	2
(3) 寒害及び病虫害抵抗性	3
3 収量特性	4
4 品質特性	5
(1) 普通煎茶	5
(2) 香り緑茶	6
(3) 荒茶成分	6
5 特性のまとめ	7
6 消費者嗜好調査	7
7 適地及び栽培上の留意点	7
8 命名の由来	8
おわりに	8
参考文献	8

はじめに

近年、消費者の嗜好は多様化しており、特に若い世代の女性には花のような香りを好む傾向が見られます。しかし、現在、静岡県茶園の約9割は主力品種の「やぶきた」で占められているため、香味が画一化し、この嗜好の多様化に対応するのは困難となっています。

そのため当センターでは、これまでにハーブ系の清涼感のある香りを持つ品種「香駿」や、バナナのような甘い香りが特長の品種「しずかおり」等を育成してきました。

このたび新たに、ほのかな桜葉のような香りを呈し、生葉を萎凋処理することで爽やかなスミレのような香りが際立つ品種「ゆめすみか」を育成しましたので、特性の概要を紹介します。

1 来歴及び試験経過

「ゆめすみか」はミルクのような甘い香りを持つ早生品種「するがわせ」を種子親に、色沢や香味が優れる玉露・てん茶用品種「きょうみどり」を花粉親として、1990年に交配して得られた実生群から選抜しました。個体選抜、苗床選抜、栄養系比較試験、奨励品種選定試験などを経て、品種としての優秀性を確認したことから、特性補完調査を実施した後2022年11月に品種登録出願し、2023年5月に出願公表されました。

- ・1990年 交配（種子親「するがわせ」×花粉親「きょうみどり」）
- ・1991年 採種
- ・1993～1998年 個体選抜
- ・1998年 苗床選抜
- ・1999～2004年 栄養系比較試験
- ・2007～2012年 奨励品種選定試験
- ・2014～2021年 特性補完調査
- ・2022、2023年 品種登録出願、出願公表



写真1 「ゆめすみか」の一番茶新芽

2 生育及び一般特性

生育、収量性、品質等の特性については、標準品種の「やぶきた」及びやや早生品種の「つゆひかり」と比較して説明します。また、調査は主に茶業研究センター（以降、「菊川：平坦地」と、川根本町農林業センター（以降、「川根：山間地」）の2か所で実施し、寒害及び病虫害の発生についてはJ A富士市茶業研修センター（以降、「富士：東部地域」）でも実施しました。

（1）生育特性

菊川における「ゆめすみか」の定植2年目の分枝数は、「やぶきた」と比較して多く、「つゆひかり」とほぼ同程度です。樹姿は「やぶきた」と同じ『やや直立』です。樹勢は樹高、株張り、収量性などから判断して『強』です（表1）。

川根については、栽植時のうね幅（1.5m）が菊川（1.8m）と異なるため株張り等の生育が異なりますが、樹姿や樹勢等は概ね菊川と同様の傾向でした（表1）。

表 1 生育特性

調査地	品種名	分枝数 ^{a)} (本/株)	樹高 ^{b)} (cm)	株張り ^{b)} (cm)	株張り/樹高 (%)	樹姿	樹勢
菊川	ゆめすみか	14.6	134	160	119	やや直立	強
	やぶきた	8.5	117	142	121	やや直立	やや強
	つゆひかり	12.9	129	173	134	中間	極強
川根	ゆめすみか	8.5	123	131	107	やや直立	強
	やぶきた	6.5	110	114	103	やや直立	やや強
	つゆひかり	5.7	121	134	110	中間	極強

^{a)}定植2年目、^{b)}定植6年目

(2) 早晩性

「ゆめすみか」の一番茶萌芽期は、「やぶきた」に比べて菊川では13日早く、川根では6日早くなりました。「つゆひかり」と比較しても菊川では7日、川根では6日早くなりました(表2)。

一番茶摘採日は、菊川では「やぶきた」、「つゆひかり」と同日、川根では両品種に対して2日早くなりました(表2)。

以上から、「ゆめすみか」の早晩性は、菊川では『中生』、川根では『やや早生』と考えられます。

表 2 一番茶萌芽期及び摘採日

調査地	品種名	一番茶萌芽期 (月/日)			一番茶摘採日 (月/日)		
		5年目 ^{a)}	6年目	平均	5年目	6年目	平均
菊川	ゆめすみか	3/28	3/29	3/29	5/ 5	5/ 4	5/ 5
	やぶきた	4/11	4/10	4/11	5/ 5	5/ 5	5/ 5
	つゆひかり	4/ 4	4/ 6	4/ 5	5/ 5	5/ 5	5/ 5
川根	ゆめすみか	4/ 8	4/ 7	4/ 8	5/10	5/ 9	5/10
	やぶきた	4/15	4/12	4/14	5/14	5/ 9	5/12
	つゆひかり	4/15	4/12	4/14	5/14	5/ 9	5/12

^{a)}定植後年数

(3) 寒害及び病害虫抵抗性

「ゆめすみか」の寒害（赤枯れ）の発生程度は、調査した年により異なるものの、菊川、川根、富士のいずれも概ね少なく、「やぶきた、つゆひかり」並みの『強』と考えられます（表3）。

表3 寒害（赤枯れ）の発生程度

調査地	品種名	2年目 ^{a)}	3年目	4年目	5年目	6年目	平均
菊川	ゆめすみか	1.0 ^{b)}	3.0	2.0	1.0	1.5	1.7
	やぶきた	1.0	2.5	3.0	1.0	2.0	1.9
	つゆひかり	1.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.1
川根	ゆめすみか	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.3
	やぶきた	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.3
	つゆひかり	3.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.4
富士	ゆめすみか	3.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.6
	やぶきた	3.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.4
	つゆひかり	3.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.4

^{a)}定植後年数、^{b)}発生程度：1(無)～5：(多)

「ゆめすみか」の炭疽病発生程度は、調査期間の平均で5段階評価（1：無～5：多）の1.6（川根）～2.5（富士）で、「やぶきた」よりは少なく、『やや弱』と考えられます（表4）。赤焼病の発生程度は同じく1.4（川根）～2.2（富士）で、「やぶきた」と同程度の『やや弱』と考えられます（表4）。クワシロカイガラムシの寄生は調査期間中に川根、富士ではみられず、菊川では5段階評価の1.8で「やぶきた」と同程度の『やや弱』と考えられます（表4）。もち病については、川根での調査では「やぶきた、つゆひかり」とほぼ同程度の『やや弱』と考えられます（表4）。

表4 病害虫の発生程度

調査地	品種名	炭疽病 ^{a)}	赤焼病 ^{b)}	もち病 ^{c)}	クワシロカイガラムシ ^{a)}
菊川	ゆめすみか	2.3(4.0) ^{d)}	1.7(3.0)	-	1.8(2.5)
	やぶきた	3.7(4.5)	1.8(3.0)	-	1.8(2.5)
	つゆひかり	1.3(2.0)	1.5(3.0)	-	1.6(2.5)
川根	ゆめすみか	1.6(2.0)	1.4(2.0)	146 ^{e)}	1.0(1.0)
	やぶきた	3.1(4.5)	1.7(2.5)	100	1.0(1.0)
	つゆひかり	1.3(2.0)	1.8(3.0)	116	1.0(1.0)
富士	ゆめすみか	2.5(4.5)	2.2(3.5)	-	1.0(1.0)
	やぶきた	3.2(5.0)	2.6(4.0)	-	1.0(1.0)
	つゆひかり	1.4(2.0)	2.1(3.0)	-	1.0(1.0)

^{a)}調査期間 2007～2012 年、^{b)}調査期間 2008～2012 年、^{c)}調査期間 2015～2021 年

^{d)}発生程度：1(無)～5：(多)、調査期間中の平均、カッコ内は調査期間中の最高値

^{e)}1株または1㎡当たり発病葉数の「やぶきた」=100とした指数の調査期間中の平均値

3 収量特性

「ゆめすみか」の10a当たり生葉収量は、定植6年目の年間合計で1222kg（川根）～1323kg（菊川）であり（表5-1）、「やぶきた」を100とした場合の指数では、定植5～6年目の平均で、一番茶が110（川根）～147（菊川）、年間で144（川根）～249（菊川）と多収です（表5-2）。

摘採面当たり生葉収量でも、「やぶきた」を100とした場合、年間合計で125（川根）～207（菊川）と多収です（表6）。

表5-1 10a当たり生葉収量① (kg/10a)

調査地	品種名	定植5年目				定植6年目			
		一番茶	二番茶	秋冬番茶	年間計	一番茶	二番茶	秋冬番茶	年間計
菊川	ゆめすみか	270	318	959	1547	203	232	888	1323
	やぶきた	146	100	273	519	187	154	322	663
	つゆひかり	344	529	1256	2129	456	507	1131	2094
川根	ゆめすみか	239	313	623	1175	368	259	595	1222
	やぶきた	228	205	386	819	317	165	362	844
	つゆひかり	256	373	662	1291	461	316	563	1340

表5-2 10a当たり生葉収量②

調査地	品種名	定植5～6年目指数平均			
		一番茶	二番茶	秋冬番茶	年間計
菊川	ゆめすみか	147	234	314	249
	つゆひかり	240	429	406	363
川根	ゆめすみか	110	155	163	144
	つゆひかり	129	187	164	158

やぶきた=100の指数

表6 摘採面当たり生葉収量

調査地	品種名	定植6年目 (g/m ²)				定植5～6年目指数平均 ^{a)}			
		一番茶	二番茶	秋冬番茶	年間計	一番茶	二番茶	秋冬番茶	年間計
菊川	ゆめすみか	197	247	958	1402	117	196	266	207
	やぶきた	234	190	386	810	100	100	100	100
	つゆひかり	428	541	1166	2135	186	350	325	289
川根	ゆめすみか	427	296	812	1535	95	133	141	125
	やぶきた	420	218	561	1199	100	100	100	100
	つゆひかり	544	370	751	1665	115	166	144	140

^{a)}やぶきた=100の指数

採摘調査では、一番茶では「ゆめすみか」は「やぶきた」に比べて摘芽長がやや短く、摘芽数が多い傾向です（表7）。

表7 採摘調査結果

茶期	調査地	品種名	摘芽長 (cm)	摘葉数 (枚)	出開き度 (%)	百芽重 (g)	摘芽数 (本)
一番茶	菊川	ゆめすみか	3.8	2.6	8	33.3	44
		やぶきた	5.0	3.1	33	48.7	33
		つゆひかり	5.1	3.4	26	60.1	59
	川根	ゆめすみか	4.7	3.1	35	57.0	59
		やぶきた	6.0	3.7	52	62.8	56
		つゆひかり	5.0	3.7	47	55.6	67
二番茶	菊川	ゆめすみか	4.9	3.1	32	69.9	42
		やぶきた	4.2	2.9	46	53.7	34
		つゆひかり	4.2	3.2	52	49.8	57
	川根	ゆめすみか	3.6	2.6	21	41.7	44
		やぶきた	3.2	2.6	29	36.3	41
		つゆひかり	5.1	3.2	49	58.0	50

定植6年目、20cm×20cm採

4 品質特性

(1) 普通煎茶

「ゆめすみか」の一番茶荒茶品質は、形状、香氣、滋味は「やぶきた」並みですが、色沢、水色がやや劣る傾向です(表8)。香氣では花香、桜葉香、滋味では爽快味、桜葉味等の概評があり、色沢では沢なし、水色では赤みの指摘があります。

二番茶では色沢以外は概ね「やぶきた」並みか、「やぶきた」を上回ります(表9)。概評では桜葉香、萎凋香、桜葉味などが指摘されています。

表8 一番茶荒茶品質(やぶきた=100の指数)

調査地	品種名	形状	色沢	香氣	水色	滋味	小計点	合計点
菊川	ゆめすみか	100	85	97	89	94	92	93
	つゆひかり	113	109	103	99	103	105	105
川根	ゆめすみか	107	94	92	101	95	94	97
	つゆひかり	99	106	89	92	92	96	96

官能評価、小計点=色沢+香氣+滋味、定植5~6年目の平均

表9 二番茶荒茶品質(やぶきた=100の指数)

調査地	品種名	形状	色沢	香氣	水色	滋味	小計点	合計点
菊川	ゆめすみか	116	82	125	116	103	105	109
	つゆひかり	123	133	104	89	93	108	107
川根	ゆめすみか	92	92	96	109	110	98	99
	つゆひかり	106	108	97	114	104	103	105

官能評価、小計点=色沢+香氣+滋味、定植5~6年目の平均

(2) 香り緑茶¹⁾

香り緑茶製法（摘採した生葉を、萎凋処理（加温、攪拌、低温静置）により香りを発揚させてから製造する製法）で製造した「ゆめすみか」の荒茶品質は、香気と滋味が非常に優れ、一番茶、二番茶とも両評価項目の合計点は香りが特長の「香駿」を上回ります。概評では、「爽やかな花様の香り、スマイレ様の香り、軽やかな香り」などの評価があり、「香駿」の概評「甘いバニラ様の香り、重厚な香り」と異なります。一方、香り緑茶製法により水色は低下する傾向です（表10）。

表10 荒茶品質（2020年）

茶期	品種名	香気発揚 処理	形状	色沢	香気 (a)	水色	滋味 (b)	小計 (a+b)	合計
一番茶	ゆめすみか	処理	18.0	15.0	20.0	13.0	18.0	38.0	84.0
		無処理	19.0	14.0	16.0	17.0	15.0	31.0	81.0
	香駿	処理	18.0	18.0	19.0	14.5	18.0	37.0	87.5
		無処理	17.0	19.0	17.0	18.0	16.0	33.0	87.0
二番茶	ゆめすみか	処理	10.5	9.0	18.0	9.0	15.0	33.0	61.5
		無処理	7.0	7.0	12.0	16.0	13.0	25.0	55.0
	香駿	処理	12.0	12.0	17.0	12.0	15.0	32.0	68.0
		無処理	7.0	10.0	12.0	15.0	11.0	23.0	55.0

各項目 20 点満点、調査地：菊川

花様香気に関連する主要な香気成分量は、香り緑茶製法により一番茶、二番茶とも大幅に増加し、特に「ゆめすみか」の一番茶において顕著であり、合計量では「香駿」を上回ります。また、個別の成分ではインドールの増加量が最も多く、次いでジャスミンラクトン、リナロールオキサイド I～IVが増えます（表11）。

表11 花様香気に関連する主要香気成分量

(d. w. $\mu\text{g/g}$)

茶期	品種名	香気発揚 処理	a	b	c	d	e	f	g	h	合計
一番茶	ゆめすみか	処理	1.46	34.32	12.99	2.40	0.20	0.00	0.00	10.69	62.07
		無処理	1.18	0.17	0.05	0.03	0.00	0.00	0.00	2.49	3.93
	香駿	処理	1.84	19.78	11.52	1.74	1.39	0.00	0.00	3.69	39.97
		無処理	1.02	0.11	0.13	0.11	0.00	0.00	0.00	1.03	2.41
二番茶	ゆめすみか	処理	1.34	15.13	7.37	0.91	0.62	0.00	0.00	7.84	33.21
		無処理	1.33	0.00	0.19	0.00	0.00	0.00	0.00	2.59	4.12
	香駿	処理	1.25	10.01	10.82	1.63	2.04	0.00	0.00	4.79	30.54
		無処理	1.15	0.00	1.36	0.25	0.00	0.00	0.00	3.07	5.84

a:クマリン、b:インドール、c:ジャスミンラクトン、d: α -ジャスモン、

e:2-フェニルエタノール、f:ゲラニオール、g:リナロール、h:リナロールオキサイド I～IV

(3) 荒茶成分

「ゆめすみか」の普通煎茶の荒茶成分含有率は、「やぶきた、つゆひかり」に比べて一番茶、二番茶ともに遊離アミノ酸、テアニンが少なく、タンニンが多い傾向がみられました（表12）。

表 12 荒茶成分含有率（普通煎茶） (d. w. %)

茶期	品種名	全窒素	遊離アミノ酸	テアニン	繊維	タンニン	カフェイン	ビタミンC
一番茶	ゆめすみか	5.5	2.2	1.0	16.4	18.9	3.0	0.51
	やぶきた	5.6	2.9	1.5	17.5	15.3	2.7	0.49
	つゆひかり	6.2	3.9	1.9	16.1	13.0	3.1	0.40
二番茶	ゆめすみか	3.7	0.0	0.0	24.0	22.8	2.1	0.66
	やぶきた	3.9	0.7	0.2	24.2	19.9	2.2	0.59
	つゆひかり	4.7	1.5	0.7	22.4	16.6	2.8	0.37

近赤外分光分析法、定植6年目、調査地：菊川

5 特性のまとめ

- ・「やぶきた」に比べて分枝数が多く、樹姿は『やや直立』、樹勢は『強』です。
- ・早晚性は、菊川（平坦地）では一番茶摘採期が「やぶきた」と同日の『中生』、川根（山間地）では2日早い『やや早生』です。
- ・耐寒性は、赤枯れ抵抗性が『強』です。
- ・耐病虫性は、炭疽病、赤焼病、もち病、クワシロカイガラムシのいずれに対しても『やや弱』です。
- ・収量性は、一番茶、年間とも「やぶきた」より多く、『多』です。
- ・収量構成は、「やぶきた」に比べて摘芽数がやや多いです。
- ・普通煎茶の荒茶品質は、形状、香気、滋味は「やぶきた」並みで、色沢、水色がやや劣ります。香気は桜葉香があります。
- ・香り緑茶製法では、香気と滋味が非常に優れ、爽やかなスマレのような香りを呈します。
- ・普通煎茶の荒茶成分は、遊離アミノ酸、テアニンが少なく、タンニンが多い傾向です。

6 消費者嗜好調査

2019年に開催された世界お茶まつりの来場者を対象に実施した嗜好調査では、香り緑茶製法による「ゆめすみか」の香りを、75%の人が「好き」または「やや好き」と回答しました（図1）。

また、2023年に日本茶インストラクターや一般のお茶愛好家などを対象に実施した試飲会では、「爽やかな味、香り」、「ミルクィー、フルーティー」、「ジャスミン、スマレ、クチナシ、清涼感のあるキンモクセイのような香り」などの評価がありました。

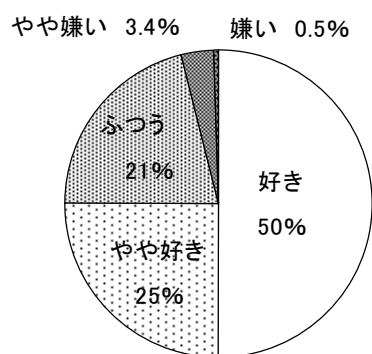


図1 「ゆめすみか」の香りの評価

（対象：世界お茶まつり(2019)来場者
人数：207人）

7 適地及び栽培上の留意点

「ゆめすみか」は、耐寒性や耐病性など、県内広域（菊川、川根、富士）での適応性が認められるため、県内全域での栽培に適します。

栽培上の留意点として、一番茶の萌芽期が早生品種並みに早いいため、防霜対策を早めに行う必

要があります。また、「やぶきた」に比べて炭疽病の発生は少ないですが、通常気象条件では多少の発生が見られるため、他の病害虫の防除と併せて防除の実施を検討してください。

8 命名の由来

夢のある明るい未来への期待と、本品種の特徴である澄んだスマイレのような香りにちなんで命名しました。

おわりに

香り緑茶製法の「ゆめすみか」を試飲されたほとんどの方は、爽やかなスマイレのような甘い香気に驚かれます。

「ゆめすみか」は元々普通煎茶として桜葉のような香りがあり、その他の特性も「やぶきた」以上に優れたため品種候補として有望視していましたが、その後実施した香り緑茶適性の調査で、際立った優秀さが明らかになりました。軽やかで爽やかな香りは、萎凋により濃厚な甘い香りを呈する品種「香駿」とは全く異なるものでした。

「ゆめすみか」は香りを活かした商品作りに最適な品種です。高付加価値生産に取り組む自園自製農家や経営体、特徴ある商品開発を目指す茶商や小売店等の皆さんに、積極的に導入や取扱いをしていただきたいと思います。

本品種が静岡県茶業振興の一助になることを期待します。

参考文献

- 1) 小林利彰ら, 2017. 新たな「香り緑茶」の開発. あたらしい農業技術, 静岡県経済産業部, 636, 21pp.



写真2 「ゆめすみか」の一番茶期の園相

農林技術研究所茶業研究センター
茶生産技術科 主任 鈴木康孝